



毎月配布される給食だよりに見ると、実に様々な事が見えてきます。メニューは、和洋中とバラエティーに富んでいて、その中で栄養バランスが考えられています。更に、地産地消の食材が用いられ、毎年この時期には八幡芋や、ハロウィーンにはかぼちゃのスープがお目見えしたり、子ども達が自然に季節を感じられるような工夫がされています。

給食事情

今までの... 毎月配布される給食だよりに見ると、実に様々な事が見えてきます。メニューは、和洋中とバラエティーに富んでいて、その中で栄養バランスが考えられています。更に、地産地消の食材が用いられ、毎年この時期には八幡芋や、ハロウィーンにはかぼちゃのスープがお目見えしたり、子ども達が自然に季節を感じられるような工夫がされています。



その中にいくつかのラーメンの献立。麺が袋に入っていて、スープが器に盛られ、子ども達が自分で麺をスープに入れて食べるというものです。まさかラーメンまでもが給食に進出しているとは...という感じですが、子どもの好きなメニュー、カレーライスに続いてラーメンまで、しっかり網羅されている最近の給食には感心するばかりです。「学校で何が好き？」の問いかけに、体育、図工、などに紛れて、「オレ、給食！」と、元気な男の子の声が聞こえてき

学校沿革史(学校で行われた主な出来事などを記録しておくもの)に、初めて西小まつりの実施が記述されたのは、昭和59年(1978年)のことでした。

昭和61年の記述には、『テーマ「ふれあいの輪を広げよう」、参加者130名、特に三世交代を願い、学年毎に昔の話をお年寄りから聞く会を設定。子ども達と意見交換。』と書かれており、当時から祖父母等、お年寄りをご招待して西小まつりを実施していたことがうかがえます。

今年も児童の祖父母、保護者のみならず、地域の方々にも大勢のご参加をいただきました。

初見 創立140周年



旧校舎(明治)

五月十一日に志田村の興禅寺において志田学校と名づけられ発足しました。当時は四十数名の子どもの達でスタートしたそうです。現

平成二十五年十一月十五日毎年恒例の西小祭りの同日、山田実行委員長のもと創立百四十周年記念式典が盛大に開催されました。本校は、今から百四十年前の一八七三年(明治六年)

ふたすけ通信

学校運営協議会発行

第2号 特大号

発行: 甲斐市立双葉西小学校 学校運営協議会 広報部

在のおよそ一クラス分ほどの人数だったのです。周囲の村々の合併や学校制度の変革に伴い塩崎小学校、塩崎尋常小学校、塩崎国民学校等々、呼び名が変わりました。昭和三十年に塩崎村、登美村の合併により新たに双葉西小学校と改称されました。また平成十六年、甲斐市の誕生に伴い「甲斐市立双葉西小学校」と改称され、現在に至っています。

下の写真は、大正十三年、塩崎尋常高等小学校の卒業記念写真です。当時は、男の子も女の子も着物や袴姿が主流で、洋服姿はほんの少数です。その時代には、テレビもパソコンもDSも携帯もありません。当時の子ども達



姿を、見守ってくれることでしょう。



校舎(現在)

はどのように学び、どのように遊んでいたのでしょうか。校庭の片隅に明治、大正、昭和、平成への時代の流れ



当日は、予想よりも少ない来場者となりました。冷たい雨が降る中、温かいみそ汁は大変喜ばれました。「おいしかったよ。」という言葉が、これまでの皆の苦勞が報われた思いで一杯になりました。

暑かった今年の七月に、記念式典について初めて詳しい話がありました。保健給食部の私は、昼食のみそ汁の担当になりました。当日のことを考えると、とても心配になりました。

来場者が来るのでは?と心配が必要なのか、すべてが手探りで回りの役員の方々の顔も最初は、くもりがちでした。その後、何度も話し合い

創立百四十周年記念式典を終えて

PTA保健給食部

学校運営協議会って?

安全支援

「行ってきます」「行ってらっしゃい」の言葉で学校に向かう。最近の新聞等で報じられる子どもの身に迫る危険。安全でなければならぬはずの通学路で、まさかの事故。この様なことがないように登下校の時には危険箇所を立て見守り活動を行っております。

学校では、月に一回地震・火災等を想定して模擬訓練を全校で実施しております。その折に状況を必ず見て、講評を行っております。

年度始めには、一年生を対象に交通ルールを勉強し、登下校に活かしております。

また、学習の中で児童が地域の危険箇所マップを作

フハンパーガーなる自分でパンにハンバーグを挟んで食べるというメニューもあります。給食が楽しみになるのも納得です。(N)



学習支援

先生が児童に教える時、専門的な分野になると上手に説明出来ない事があります。授業は教科書にそって進行するので、私の出番は年に一度です。人生の体験や仕事上での経験を持った多くの学校応援団の講師が、授業に合わせて教室に向いて行きます。

その際、専門的な内容を子ども達に興味を持って貰えるよう、ユーモアを交えながら理解出来るように説明し、教科書の内容を掘り

体験活動支援

私は学校応援団の体験活動部の活動の一環として、毎年五年生の「日本の米づくり」に携わっています。

初夏に田んぼに入り、一株ずつ自分たちの手で苗を植え付け、秋の稲刈りや稲こきまでを子どもたち自身で行ってもらいます。この活動をおして、いつもあたりまえのように口にしている食べ物、私たちの口に入るまでに、たくさん苦勞があり「食」のありがたさを少しでも実感してもらえたらいいな、と思っています。

下げて学習支援を行っていただきます。

ふたすけ通信



見つけれれか?

第2号特大号はいかがでしたか? 記事への協力ありがとうございました。次号発行に向けてネタ探しに東奔西走な日々...突然の取材や原稿依頼、ぜひご協力をお願いいたします。学校応援団ブログも見てね!